



地区スローガン **愛着と誇り**

第 2766 回例会 平成 29 年 7 月 18 日 2017. 7. 25 発行



クラブテーマ

ロータリー：  
変化をもたらす

# 一人一人がリーダーシップ力を 発揮する楽しいクラブ



創立/昭和 36 年 6 月 28 日  
承認/昭和 36 年 8 月 3 日  
例会日/火曜日 12:30~13:30  
例会場/勝山市民活動センター内  
〒911-0811 福井県勝山市片瀬町 1 丁目 402 番地  
TEL0779-87-7761 FAX0779-87-7760  
URLhttp://katsuyamarc.jimdo.co  
Email katsuyamarc@gmail.com

## ●会長スピーチ：

会長 竹原 幸雄



白山平泉寺開山 1300 年の記念行事が 7 月 15 日から 7 月 17 日にかけて特に盛んに行われました。みなさんも何らかの関りで参加されたのではないのでしょうか。

さて 7 月にはいり、全国一斉に「社会を明るくする運動」が行われました。この運動は犯罪や非行を防ぎ、立ち直りを支える運動で関係機関が一緒になって繰り広げるものです。私

はこの時期になると特に注目したいことがあります。それはこの運動を題材にした作文が全国の小中学生から集まり、その中から法務大臣表彰を受けた子の作文が発表されることです。今回は長崎県の小学 6 年生の女の子が選ばれました。

その作文の題は「大切な魔法の言葉」でした。どんな言葉だと思いますか。実はこの女の子の両親は児童自立支援施設の寮でこの施設に入ってきた少年たちの親代わりをしていました。少年たちは様々な理由で家庭環境に恵まれずに非行に走ったり人間不信に陥り、家庭裁判所の審理でこの施設に入ってきます。そうするとこの女の子は当然に入所してきた少年たちと生活を共にすることになります。この少年たちが女の子にとってはお兄ちゃんになるわけです。女の子は母親に抱かれている時、少年たちが「僕もこうやって育ててほしかった」と呟くことをたびたび聞くことがあったそうです。何時しかこの女の子は、玄関に出て少年たちが帰って来るのを待ち「おかえり」と声掛けして迎えるようになったそうです。この少年たちは今までこのように迎えてくれたことなどなかったのでしょうか。少年たちの眼や心は温かきで満たされていったそうです。この「おかえり」の言葉を魔法の言葉として、どんな時でも大切にしたいと結んでいました。またこんなことも書いていました。少年たちはいつか成長して社会にでていきます。「あのお兄ちゃんたちに誰か『おかえり』を言ってくれるのかな。とても心配です。」と。私はこの時期にいつも思うのですが、子供たちの作文には社会を明るくするヒントが本当にたくさん詰まっていると思うのです。これからも全国の子供たちの体験を踏まえた作文から教えてもらうことを楽しみにしていきたいと思います。

## インターシティミーティングのご案内

福井北ロータリークラブ

IM 実行委員長 光野稔氏

安田亨氏



本年度第 5 組インターシティ・ミーティングを「障がい者スポーツを理解し、未来につなげよう！」をテーマに開催させていただきます。リオパラリンピック銅メダリストの辻沙絵さん、日体大パラスリート監督の水野洋子さんによるトークセッションの後、「ロータリアンとして障がい者スポーツにどうかかわれるか？」をテーマに栗田幸雄ゼネラルリーダーのもと 3 人のパネリストによるパネルディスカッションを行います。

是非全員登録をお願いいたします。

開催日 平成 29 年 10 月 28 日 (土)  
本会議 13:00~16:50 AOSSA 8 階 県民ホール  
懇親会 17:30~18:45 ユアーズホテルフクイ  
※無料駐車場はございませんので公共交通機関でお越しください。

## ●幹事報告 幹事 梅田 秀司

- 例会変更のお知らせ (詳細は地区ホームページで)
- 本日は理事役員会です。
- 7/25 は事前クラブ協議会です。
- 活動計画・報告書の校正を各自お願いします。

## ●出席報告 中道 直司

- 7 月 18 日 欠席 4 名 85.19%
- 7 月 11 日 欠席 3 名 88.89%

## ●SAA 報告〈ニコニコ箱〉 山内 政司

- ビクターフィー …… 福井北 RC 光野 稔 氏
- ビクターフィー …… 福井北 RC 安田 亨 氏
- IM のお願い …… IM 実行委員長 光野 稔 氏
- ビクターフィー …… 鯖江 RC 田村 康夫 氏
- ビクターフィー …… 鯖江 RC 佐野 直美 稔 氏
- 届出欠席 …… 織田 昌弘 会員
- 届出欠席 …… 辻 利津子 会員
- 遅刻 …… 滝川 博則 会員
- 早退 …… 幅田 正実 会員
- 家族の結婚祝 …… 多田 慶一郎 会員



本日 プログラム	決算・公式訪問 事前クラブ協議会	8/1 プログラム	クラブフォーラム 会員増強・退会防止	8/8 プログラム	ガバナー公式訪問 大野合同例会	8/15 プログラム	休会
-------------	---------------------	--------------	-----------------------	--------------	--------------------	---------------	----

## 【会員卓話】

## 障がい者スポーツについて

吉田 清隆 会員



来年は福井しあわせ元気国体が開催されます。同時に、福井しあわせ元気大会(全国障害者スポーツ大会)が開催されます。

福井県では、障害者の方を受け入れるためボランティアを募集し、聴覚障害がある選手や来場者を手話などでサポートする「情報支援ボランティア」は、目標の600

人に達したそうです。各地で手話講座も始まっています。

福井県聴覚障がい者協会の会長は、ろう者への情報伝達は「伝えようという気持ちが一番大事」といいます。特に、紙とペンを使う筆談で登録者を伸ばしたい考えです。

県内の大学、短大、専門学校の学生が障スポの選手に同行して、移動介助や競技の応援をする「選手団サポートボランティア」の養成研修を始め、15校を協力校に委嘱し、約800人に活動してもらう計画です。

私は全ての障害の方の対応はしたことがないが、平成3年に競技で走ることを少なくして、ボランティアとして視覚障害の方の伴走をやり始めました。楽障クラブというクラブに協力しており、視覚障害者に対するランニング時の伴走についてお話いたします。

視覚障害といってもいろいろあることが分かりました。全く見えない人やかすかにぼんやり見える人。また、周辺は全く見えないが本が読め、視力2.0ある人もいます。

最初はただ、約50センチくらいの紐をつないで一緒に走れば良いと思っていたが、大きな間違いでした。道路の勾配や曲がりくねりはもちろん、周辺環境を適確に伝えなければならず、走っている間ほとんど声を出して説明をしなければなりません。例えば、走ったり歩いたりしているとき、「坂があります」「段があります」と言うだけでは、相手の方は止まる場合があります。われわれ健常者は見えるので、その坂や段が上りか下りかがわかりますが、視覚障害の方はわかりませんので、確認してから動作を起こします。そのような基本が全く分かっていない自分が恥ずかしく思いました。常に詳細な道路状況を伝えるよう心がけました。

6月の恐竜クロカンマラソンで初めて視覚障害者に参加をしていただき、20kmの部を走りました。

これまでは、自分の走力に対する不安もあり、長尾山公園内の高低差と曲がりくねりを上手く説明し、転ばず走れるか心配で参加への声掛けができませんでした。しかし、相手の方から10数年前の奥越マラソン勝山大会で走ってから勝山で走っていないのもう一度勝山で走りたいとのことで、今回実現しました。ゴール後の感想は、アップダウンは想像以上に厳しかったが非常にタフなコースで、いい練習になった。天気がよく風が爽やかで、川の流れる音や空気がきれいですごくよかったです。また来年も走りたいと言っていました。視覚障害者は、足の感覚、音の捉え方等我々とは違う感覚があります。

今回伴走していて残念に思ったことは、「伴走」のゼッケンの意味を理解されていないことでした。

(私は胸に「伴走」と書いたゼッケンをつけていました)途中いくつかの給水所があり、水やスポーツドリンクを渡してくれますが、視覚障害の方にも私と同じように、普通に手渡しをするので、視覚障害の方は受け取ることができません。受け取れないことがわかるとようやく事態がわかったボランティアの方もいました。また、親切心でコースに出て手渡ししてくれる方もいたのですが、視覚障害の方はその方が見えないので、そのまま走りぶつかったこともありました。視覚障害の方は物にぶつかったりすることを極端に嫌います。伴走者を信頼できなくなり、しばらく動かない時もあります。今回は視覚障害者が走るというのはごく一部のみにしか伝えていなかったもので、仕方ない点もありますが、過去の県内のマラソンで何度となく伴走をしましたが、今回のような事態は初めて経験しました。「伴走」のゼッケンの意味を幅広く知っていただきたいと実感しました。



「障スポ」という言葉が徐々に浸透していますが、受け入れる対応はまだまだ遅れていると思います。もちろん一般市民の方々はそのような対応の経験が少ないと思いますので、攻めることはできませんが、あと1年かけて、「勝山市は障害者の受け入れは最高」との評判がたつように願っています。

昨年は、楽障クラブから、西島美保子さんがリオパラリンピックのフルマラソンに出場されました。残念ながら35キロで意識がなくなり棄権しました。私も壮行会に出席しましたが、多くの方々に祝福していただいたのはもちろん、クラブの方々も希望の灯がともったと大変喜んでおられたのが印象的でした。

機会があれば、ロータリーに来ていただき講演をしていただければと思っています。また、その際市内の小中学校で講演をしていただき、障害者に対する理解を深めていただければと思います。ただ、現在は東京パラリンピックに向けて、コーチのもと練習スケジュールが組まれているようですので、どれだけ時間がとれるかは不透明です。

今後も県内各地で障がい者スポーツ大会が開かれますが、県下RC全体で障がい者に対するボランティアに取り組む活動ができ、参加者にいい思い出が作ってもらえたらと思っています。

10月28日のIMでは色々なお話が聞けると思うので、今から楽しみにしています。

## RI2650 地区 RLI ディスカッションリーダー



委嘱状伝達式  
淵上勝夫会員